

1. トランプ外交と「新冷戦」への序曲

- 出発点は「アメリカファースト」「**全ての判断基準は米国(民)の利益**」(2017年就任演説)  
▽単独行動、同盟・国際協調軽視▽イラン核合意(JCPOA)、TPP、パリ協定離脱、NAFTA再編 etc.
- 「力による平和」と(限定的)国際協調へシフト(2017年国家安全保障戦略と2018年国家防衛戦略)  
中露は「秩序の改変をめざす現状変更勢力」⇒「同盟・パートナー諸国と連携・協調して対抗し」、  
「地政学的な長期・戦略的競争に打ち勝つ」⇒「道義的現実主義」
- 関税戦争から全面対決へ⇒「関与すれば中国は変わる」は誤り(2018、19年、ペンス副大統領)

2. 対中包囲網は築けるか——「新冷戦」の焦点

- コロナ禍で戦線拡大⇒政府総力(Whole-of-Gov't)対応  
香港・台湾、人権、ウイグル、南シナ海、5G、知財窃盗、イデオロギーetc.
- 「戦略的アプローチ」(5月)、「**中国共産党は自由世界最大の脅威**」(7月、ポンペオ長官)
- 米欧の信頼喪失? 「民主主義国家による新たな同盟」(ポンペオ長官)はできるのか  
▽NATOなど同盟軽視▽米独確執▽WHO脱退▽G7迷走・拡大構想(印、豪、ロシア、韓国)  
▽核合意離脱等に欧州は反発▽米中衝突を望まぬASEAN▽日韓に大幅負担増を要求

3. 米大統領選——民主・共和党の対中政策と「トゥキディデスの罠」

- バイデン: 「同盟国に寄り添う」「国際協調に復帰」 ⇔ トランプ: 協調と独断専行が続く?
- バイデン: 中国の軍事的挑戦を軽視? 米国防予算効率化 ⇔ トランプ: 総力戦で対抗
- バイデン外交 **三つの不安要素**  
▽「中国の軍事的挑戦は第一義的でない」(民主党綱領) ▽「4つの危機」に安保・中国みえず  
(指名受諾演説) ▽オバマ＝ケリー＝ライス外交の対中融和と「尖閣軽視」、対口、イラン関係 etc.
- *Destined for War*(Graham Allison ハーバード大教授)邦訳『米中戦争前夜』(2017年)  
▽新興国 vs 覇権国のパワー・シフトがはらむ危険⇒「今世紀最大のトゥキディデスの罠」と警告  
▽偶発、誤算・誤解等による衝突回避の必要性
- 同盟国・日本のとるべき道は?  
▽対中抑止と牽制(とくに尖閣)、自衛力の充実・強化 ▽日中、米中対話の促進  
▽**同盟・安保協力の重層化**(英仏+EU、豪州、インド etc.)